

2022(令和4)年度 中学部入試問題について

国府台女子学院中学部

< 国語 >

1. 2021年度の問題分析

①推薦入試

平均点は59.2点。試験内容は、例年と同様に、知識問題と1000字程度の短めの文章読解を含む小問集合でした。2021年度は知識問題(問二十一まで)がやや易しくなり(到達率64.4%)、漢字語句などの基礎的な知識がしっかりと身につけていた受験生は、これを得点源とすることができたと思います。ただし、熟語として共通する部首を考えた上で、その熟語の読みを答える問題であるのに部首のほうを答えるなど(問三)、不注意による失点も目立ちました。本文の抜き出しにおいて表記を誤る答案も多かったです。読解問題はグローバルイズムの問題点を述べた文章。小学生には高度な内容で到達率51.5%でした。受験テクニックだけでは解けない問題も多く苦戦した受験生も多かったようです。特に問二十二の5のように、文章の構造をよく理解していなければ正答に至ることができない問題や、本文中の漢字に関しても、普段から難しい文章に接していなければ出会うことのない、cの「タイゲン＝体現」などは正答率が低かったように感じられました。

②第1回入試

平均点は52.6点。問題の構成は例年どおりで、推薦入試と同様の小問集合を40点、長文問題(説明的文章)を60点として出題しました。小問集合の到達率は53.7%で、問一の漢字の書き取り①「変容」、ヒントのことわざを通じて昔話「一寸法師」を導き出す問題の誤答率が高いように感じられました。「物腰」という語を用いて短文を作成する問題では充分と見なされる解答は少なく、少し古い時代の小説など多様な表現に日頃から親しんでおく必要性を感じました。長文問題は、長年、教育現場を取材してきた著者が、思考停止して従来の道徳観念を墨守する現状への警鐘を鳴らし、子どもたちが十分な社会性を身につけた上で、自ら柔軟に思考することの大切さを述べたもの。大人の言いつけの意味を「なぜ?」と考えることなく、ただ従順にしたがってきただけの「良い子」にはむしろ理解しにくい文章であったかもしれません。さらに文章量や記述の問題が増えたこともあり、到達率は51.9%でした。時間内に情報を整理して的確に解答するスキルがこれまで以上に求められる内容でした。問題となっている傍線部から離れたところに正解の根拠がある問題では正答率が芳しくなく、また問題文を正確に読まなかったことが誤答につながったと推測される答案もありました。今後も文章量の多い教材で練習を積み、時間配分を考えて、落ち着いて解答する習慣が身につくように努力してほしいと思います。

③第2回入試

平均点は57.7点。問題の構成、配点は第一回と同様です。小問集合は本校独自の出題形式であるためか、準備の不充分な答案も見受けられ、到達率は59.2%でした。長文問題は、「平均」(普通・常識的)であることを求められがちなかんじの中で、植物の進化の歴史を引き合いに出し、そこから外れたものにも大きな価値があることを読者に力強く伝えるようとする内容。到達率は56.8%でしたが、問三のグラフ問題のように本文の内容を自分の頭の中で整理しアウトプットする問題では不十分なものが多く、また文章の内容一致を問う問題(問九)も期待していたような正答率には届きませんでした。こちらも第一回同様、語彙力を高めながら、なるべく文章量の多いものを時間内で整理しながら読む練習が必要になるでしょう。

2. 2022年度入試の傾向と対策

①全体の構成

近年、本学院独自のパターンで出題してきました。つまり、推薦入試(40分、100点)では小問集合のみ(短い文章題を含む)、第1回・第2回入試(50分、100点)では小問集合と長文問題1題という形です。

2022年度入試についても同じパターンで出題します。第1回・第2回入試の配点も同様で、小問集合が約40点、長文問題が約60点です。

②小問集合について

漢字・熟語、ことわざ・慣用句、新聞等でよく用いられる語句(外来語も含めて)の意味選びなどの知識問題や、正しい言葉の使い方、文法、短文作りなど語句に関する問題が中心です。また、「ヒントに従って考える力」をみる問題や、感性・想像力をはかる問題も出題したいと考えています。近年は漢字・熟語などの「基本中の基本」をマスターしていない受験生が目立つので、難問ばかり解くのではなく、まずは漢字力(意味を含めて)を鍛えてください。推薦入試では、1000字程度の短い文章を材料にして、論理展開や心情を問うような問題も出題する方針です。

ただし、そこから話を展開させていく場合もありますので、全体の文章量が少ないとは限りません。

③長文問題について

第1回・第2回入試とも1題だけですので、問題文自体は長めになると思います。文章のジャンルとしては、説明的文章(評論など)か文学的文章(小説や随筆など)かのどちらかを出題します。

長文問題は、「要するに何がどうだと言っているのか」「だれがどんなことをして、どう思っているのか」という骨格を頭の中で確認しながら読むことが大切です。大筋をきちんとつかめれば、とんでもない間違いはしません。多くの受験生が苦手な記述問題は、解答の根拠となる語句や文が本文の中に必ずあるので、まず注意深くそれを見つけてみましょう。そして、問題が求めている内容や答え方に合わせるために、その中心語句をどう変えなければならないか、あるいはそのままでもよいかなどよく考えましょう。例年、主語と述語がきちんと対応していなかったり、要点は十分に捉えていても文末の答え方が不適切である記述解答を多く見かけます。また選択問題でも、問題文をよく読まず、「あてはまる」内容の選択肢を答えるのか、「あてはまらない」内容の選択肢を答えるのか、そのような初歩的なミスと思われる答案も多いので、焦らず、ていねいに本文や設問を読んで答えてください。

また、2021年度の第二回入試で見られたように、内容を文章以外の形式で表す問題もあるかもしれません。常に柔軟な意識をもって物事に接していく必要があります。好奇心を持ち、語彙を豊富にして自在に思考を廻らすことができると良いですね。

なお、小問集合、長文問題とも、出題する漢字は小学校で学習するものを原則としますが、よく日常で用いられるレベルのものについては、小学校で学習していないものを出题する場合があります。また、本文中の「ふりがな」についても、ある程度の読書習慣があれば読めるような常識的なものは、小学校の学習範囲以外でもつけない場合があります。

国語力を高めるのは、やはり読書習慣です。語彙を増やすとともに、他者理解の姿勢を身につけるためにも良質な文章をたくさん読むよう心がけてください。

2021年度入試 国語 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①		○				
	②	○					
	③		○			◎	
	④	○					
	⑤			○		◎	
問二		○					
問三		○					
問四		○					
問五		○					
問六				○		◎	
問七			○				
問八	○						
問九			○				
問十	①		○				
	②		○				
問十一		○					
問十二				○			
問十三				○			
問十四		○					
問十五		○					
問十六		○					
問十七		○					
問十八					○		
問十九	○						
問二十	○						
問二十一	○						
問二十二	1	a	○				
		b		○			
		c				○	
		d		○			
	2					○	
	3	I		○			◎
		II			○		
		III			○		
	4		○				
	5					○	◎
6			○				
7				○			
8		○					
9						○	
10				○			
11	ア		○				
	イ		○				
	ウ		○				
	エ		○				
オ		○					

総合 58.0%

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
問一	①				○		
	②		○				
	③	○					
	④		○				
	⑤	○					
問二				○			
問三		○					
問四				○			
問五	○						
問六				○			
問七	○						
問八				○			
問九					○		
問十			○				
問十一	1	○					
	2			○			
	3		○				
問十二					○		
問一	問一		○				
	問二			○			
	問三	○					
	問四				○		
	問五	1			○		
		2			○		
	問六				○		
	問七	1		○			
		2		○			◎
	問八				○		
	問九			○			◎
	問十	○					
	問十一					○	
問十二			○				
問十三			○				
問十四	ア		○			◎	
	イ		○			◎	
	ウ	○					
	エ		○				
問十五	I				○		
	II				○	◎	

大問別 一 56.0%
二 54.0%
総合 54.9%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
問一	①	○				
	②				○	
	③	○				
	④	○				
	⑤	○				
問二				○		
問三		○				
問四				○		
問五	○					
問六					○	
問七					○	
問八	○					
問九		○				
問十		○				
問十一	○					
問十二		○				
問十三				○		◎
問一	A	○				
	B	○				
問二				○		
問三				○		◎
問四				○		
問五		○				
問六				○		
問七		○				◎
問八	E	○				
	F	○				◎
問九	ア				○	
	イ		○			
	ウ		○			◎
	エ				○	
	オ		○			
	キ	○				

大問別 一 60.5%
二 58.5%
総合 58.7%

< 算 数 >

1. 2021 年度の問題分析

①推薦入試

出題内容は大問5題の構成で、整数・小数・分数の四則混合計算問題、短い文章形式の計算穴埋め問題、解法の経過を考えさせる問題、図形を利用した計算問題、グラフから数値を読み取る問題に分かれています。最初の四則混合計算問題は正答率が他の問題よりも高く、ほとんどの受験生が得点しています。それ以降の問題では、特殊算を出題していますので、代表的な問題を繰り返し解き、理解度を高めておくことが必要です。

平均点は 48.1 点。問 1 の四則混合計算問題は正答率が 75%でした。問 2 の特殊算を使った一行問題は、(3)、(4) で合格者と不合格者の差が大きくなりました。仕事算、平均算の基本問題でしたが、準備をきちんとしていれば解けた問題だと思えます。また全体として、(5)、(6)の正答率がとても低くなりました。(5)は、問題文を正しく読み、状況をきちんと把握しなければなりません。(6)の流水算の問題は、エンジンが止まった 30 分間に船が流されていることに気付かなかった受験生が多かったようです。問 3 (1) の計算経過の穴埋め問題は、旅人算の問題を出題しました。ア、イ、ウで合格者、不合格者の正答率の差がつかまりました。旅人算は解けるけれども、意味をきちんと理解せず使用していたのかもしれない。(2)の記述問題には食塩水の濃度を求める問題を出題しましたが、途中式など全般的によく書けていたと思えます。問 4 の図形問題は、合格者は大変よくできていましたが、不合格者は(3)の正答率が大変低くなりました。問 5 のグラフ問題は、(4)の正答率が非常に低かったです。グラフと図形の融合問題だったのですが、どこに着目すればよいのかが分かりづらかったようです。

②第1回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は 61.7 点。問 1 の四則混合計算問題は高い正答率でした。問 2 の特殊算を使った一行問題については良くできていましたが、(5)のニュートン算は合格者と不合格者の差がつかまりました。また、(4)のお金の支払い方については、すべての支払い方を確認しつつ、支払い額として重複する部分を見つけるなど少し手間がかかったこともあり、全体的な正答率が低くなりました。問 3 の経過を見る問題については、記述問題も含めてよくできていたと思えます。問 4 では、(2)、(3)の問題において、不合格者の正答率がとても低かったです。どちらも補助線を引き、特に(3)については、出来上がる図形を想像することができたかどうかポイントになりました。問 5 のグラフ問題は、合格者と不合格者の差が大きくなりました。問題文やグラフから状況を正しく理解し、立式することが少し難しく感じたようです。ただし、(1)については、グラフからすぐに読み取れるものだったので、不合格者の正答率が低かったのは大変残念です。

③第2回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

第 2 回入試は平均点が 55.5 点。問 2 は全体的に合格者と不合格者の差が大きくなりました。問題文をきちんと把握し、立式する過程や、計算で差が表れたのだと思えます。問 3 は良くできていましたが、(2)の仕事算の問題は、途中経過が書けない受験生が不合格者の中で見られました。問 4 の(1)、(3)の正答率が高くなりましたが、(2)は正答率があまりよくありませんでした。問 5 のグラフの問題は、(4)の正答率が低くなりました。問題文が長く、状況を把握することが難しかったのかもしれない。問題をきちんと読み、また、グラフから状況を読み取り整理することが大切です。

2. 2022年度入試の傾向と対策

2022年度入試については、昨年度と大きな変更はありません。出題については、すべての試験において同じ形式で行います。最初に四則混合計算を数問出題し、次に文章形式の計算穴埋め問題を出題します。解法の経過を見る問題については、2 問用意し、1 問は穴埋め問題、1 問は計算過程を書かせる記述問題とします。図形、グラフといった問題も例年通り出題する予定です。対策としては、第一に基本的な計算力をつけることです。四則混合計算は確実に得点できるようにしてください。また、中学受験に必要な様々な特殊算について理解を深めてください。最初の計算と、特殊算の一行問題、途中経過を見る問題で、テスト全体の約 60%を占めます。経過、図形、グラフなどの応用問題も大切ですが、それ以上に基礎的な部分に目を向けてほしいと思えます。また、問題をきちんと読み、立式できるように練習しましょう。解法の経過を書く問題は、どのように考え、答えを導き出したのかを確認するためのものなので、考えを省略することなく、丁寧に書くことを意識すれば、正解にたどり着きます。図形問題については、円周率 3.14 などの小数を用いた計算で受験生間に差がつく傾向があります。グラフ問題については、分かったところから数値を書き入れるようにし、場合によっては自分で理解しやすくするために、与えられたグラフ以外に他の図などを描いたりすると良いでしょう。

2021年度入試 算数 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

第1回入試

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2		○			
	3		○			
2	1	○				
	2			○		
	3			○		◎
	4			○		
	5				○	
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ		○		
		ウ		○		
		エ		○		◎
		オ		○		◎
	2	○				
4	1		○			
	2			○		
	3			○		
5	1		○			◎
	2		○			◎
	3				○	
	4				○	

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3		○			
2	1		○			
	2		○			
	3	○				
	4			○		
	5		○			◎
	6		○			◎
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ	○			
		オ	○			
	2		○			
4	1		○			
	2			○		
	3			○		
5	1		○			◎
	2		○			◎
	3			○		◎
	4				○	

設問		①	②	③	④	⑤
1	1			○		
	2		○			
	3	○				
2	1		○			◎
	2		○			◎
	3	○				
	4			○		◎
	5			○		
	6			○		◎
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ	○			
		オ			○	
	2		○			◎
4	1		○			
	2				○	
	3		○			
5	1	○				
	2		○			
	3			○		
	4				○	

大問別	1	75.6%
	2	39.8%
	3	47.2%
	4	41.7%
	5	30.2%
総合	46.9%	

大問別	1	84.1%
	2	58.8%
	3	90.8%
	4	32.1%
	5	47.7%
総合	65.3%	

大問別	1	63.8%
	2	52.2%
	3	76.3%
	4	45.5%
	5	43.3%
総合	57.8%	

< 社会 >

1. 2021 年度の問題分析

①推薦入試

社会と理科合わせて 50 分、配点は各 50 点満点です。各問のテーマは直前の説明会で伝えました。

【地理】リード文は東京都にからめたものでしたが、設問は人口問題や東京都に所属する諸島について、輸送手段や都市の問題点など多岐に分かれていました。

【歴史】縄文時代から現代までの「人の移動」をからめて出題しました。その中で、文化史や政治史、外交史などを出題しました。

【公民】民主主義についての設問でした。国政選挙権にかかわるものや、基本的人権にかかわる問題を出しました。総じて、正確に語句を書けるかどうかで、大きく差がついています。また、単純に語句を答えるにしても、間違えている人は、問題文をよく読んで何を答えればよいのかを判断する力が低いようです。

②第1回入試

第1回・第2回入試ともに、30 分間で配点は 60 点満点です。

【地理】日本の領土領海や自然、農業や工業にかかわる問題及びそれらに関するグラフの読み取りを出題しました。また、雨温図や地図を読み取る問題を出しました。

【歴史】歴史と流行病について出題しました。その中で、政治や経済、文化にからめて出題しました。

【公民】日本国憲法について、出題しました。憲法の条文をおもに出題しました。

③第2回入試

第2回入試は、テーマを事前に公開しません。

【地理】日本の国土について出題しました。また、環境問題についても出題しました。

【歴史】人類の鉄の使用について、出題しました。日本に鉄が伝わった時代から現代までにかかわる問題でした。やはりその中でも、政治や経済、文化にふれた問題を出しました。

【公民】新型コロナウイルスにからめて、政治や経済、時事的な問題を出しました。

いずれの分野も、基本的な知識を落とさずに、オーソドックスな問題を確実にとった人が、合格をつかんでいます。

2. 2022年度入試の傾向と対策

推薦入試、第1回・第2回のいずれの入試も「地理」「歴史」「公民」の3つの分野から出題します。推薦入試は地理・歴史合わせて 35 点前後、公民は 15 点前後の予定です。第1回・第2回入試は地理・歴史がそれぞれで 20～25 点、公民は 15 点前後の予定です。大問と出題分野はおおよそ対応しますが、昨年の出題を見ていただいても分かるように、あえて分野横断的な事項を問うこともあります。このような出題は、積極的に行っていきたいと思えます。また、分野を問わず、時事問題的要素を含む出題も行います。

推薦入試に関しては、理科と合わせて 50 分という短い時間で受験していただいておりますが、受験生の負担をかながみて、社会の問題数を多少減らそうと考えています。第1回・第2回についても、推薦と同様に考えております。

難易度については、第1回・第2回に比べて、推薦入試は基礎的な問題を多く出題します。また、いずれの入試でも簡単に説明してもらって論述問題を出題することがあります。問いに対する答えを的確に文章で表現できるように練習しておいてください。

なお、地名・人名・事件名などの用語を答える場合は、必ず漢字で解答してください。誤字は言うまでもなく、ひらがなも原則として得点にはなりません。そのため普段からきちんと漢字で書く習慣を身につけてください。

例年、ただ知識を問う問題や、説明会で解説したテーマそのままの問題については正答率が高く、ここは合格のためには落とせない部分となります。また、どの入試でも時事問題に関する出題の正答率が高く、よくチェックしていることがうかがえました。差がつくのは、時代や出来事についての理解を問う問題(さらにそれを説明する記述問題)、表・グラフ・資料を読み解く問題、問題文をよく読み「何を聞かれているのか」把握する問題、時代の並び替え問題、歴史分野での日本の国際関係に関わる問題、そして漢字の正確さです。こういった問題をどれだけ解くことができるかが、合否を分けます。特に、漢字をきちんと書ける人とそうでない人がはっきりと分かれるようになってきました。漢字を正確に書く人は、その他の問題の正答率も高く、漢字が不正確な人は、その他の問題も解けていません。丁寧に学習する姿勢が、それだけ重要だということです。

2021年度入試 社会 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	i		○			
		ii		○			
		iii			○		
	2		○				
	3	①		○			
		②			○		◎
	4			○			
	5	①		○			
		②			○		
	6			○			◎
	7	①	i		○		
			ii			○	
			iii		○		
iv						○	

大問別	1	47.9%
	2	62.0%
	3	48.6%
総合		52.7%

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	あ		○			
		い	○				
		う		○			
	2	①			○		
		②		○			
	3				○		
	4	①			○		
		②		○			
	5	○					◎
	6	○					
	7	①	○				
		②	○				
8		○					
2	1		○				
	2			○			
	3		○				◎
	4		○				
	5	○					
	6		○				
	7			○			◎
	8	○					
	9		○				
	10		○				
	11	○					
	12			○			◎
	13	○					
	14	○					
3	1	○					
	2		○				
	3		○				
	4		○				
	5	○					
	6	○					
	7			○			
	8	○					
	9	○					
	10		○				◎
	11	○					
	12	○					

大問別	1	69.1%
	2	67.4%
	3	77.0%
総合		70.9%

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1		○				
	2		○			◎	
	3	○					
	4	○					
	5		○				
	6			○			
	7	○					
2	1	あ			○		
		い		○			
		う		○			
2	え		○				
	2			○			
3			○				
3	1	あ			○		◎
		い		○			
		う		○			
	2		○				
	3		○				
	4	①		○			
		②		○			
	5			○			
	6			○			
	7		○				
	8			○			
	9		○				
10			○				
11			○			◎	
12		○				◎	
4	1	①			○		
		②	i			○	
			ii			○	
	③			○			
	2			○			
	3		○				
	4			○			
	5			○			
	6	①	i		○		
			ii		○		
②				○			
7	①		○				
	②		○				

大問別	1	66.9%
	2	48.7%
	3	54.3%
	4	49.0%
総合		54.0%

< 理科 >

1. 2021年度の問題分析

①推薦入試

問題数は大問4問です(50点満点、総問題数は24問)。1は小問集合で、生物・化学・地学・物理の順に各2問ずつ全8問を出題しました。いずれも基本的な知識を答える問題でしたが、化学分野の「ものの燃え方」、地学分野の「月の満ち欠けの周期」、物理分野の「氷と水の体積」に関する問題の正答率が低くなりました。2の生物分野は「植物」に関する内容で、知識問題とグラフから読み取る問題でした。知識を答える問題は比較的正答率が高く、グラフから情報を正確に読み取ることができた受験生が高得点につながったようです。3は地学分野の「地層」に関する内容で、全体的に正答率が高めになり、受験生には解きやすい内容となっていたようです。4は物理分野の「ばね」に関する内容で、大問のなかでは最も正答率が低く、合否の正答率の差が大きいものが多くなりました。

②第1回入試

出題分野は昨年と同様で問題数は大問5問です(60点満点、総問題数は30問)。1は推薦入試と同様の小問集合で、生物・化学・地学・物理分野から出題しました。地学分野の「日の出と日の入り」、物理分野の「実験器具の操作」に関する問題の正答率が低くなりました。2の生物分野は「植物」に関する内容で、知識問題の正答率が高く、断面図から正しい答えを導く問題の正答率が低くなりました。3の化学分野は「水溶液」に関する内容で、全体的に正答率が高くなりました。そのなかで中和の問題は合否の正答率の差が大きくなりました。4の地学分野は「太陽の動き」に関する内容で、南中高度の問題は、合否の正答率の差が大きくなりました。5の物理分野は「光の反射」に関する内容で、問題文の誘導に従って解いていくタイプの問題でした。問題の条件を理解することが正答率に大きく影響したと思います。

③第2回入試

出題形式は第1回(60点満点)と同様で、総問題数33問でした。1は他の試験と同様の小問集合を出題しました。化学分野の「状態変化」と、物理分野の「ふり子」の問題は正答率が低くなりました。2の生物分野は、「生態系」に関する内容でした。文章の情報を整理して答えを導く問題が多く、合否の正答率の差が大きくなりました。3の化学分野は「気体」と「環境問題」に関する内容で、全体的に正答率が高くなりました。4の地学分野は「星座」に関する内容で、地球・太陽・星座の位置関係がきちんと理解できているかが正答率に大きく影響しました。5の物理分野は「電流」に関する内容で、与えられた規則性を利用する問題でした。問題文をよく理解し、誘導にしたがって取り組めた受験生が得点できたようです。

2. 2022年度入試の傾向と対策

3回の試験ともに、例年通りの傾向で作成予定です。推薦入試は大問が4問で、小問集合・生物・化学・物理分野となります。総問題数は25問前後で、易しいものからやや難しいものまで出題する予定です。

第1回・第2回は大問が5問で、小問集合と生物・化学・地学・物理の4分野となります。総問題数は30問前後で、各回とも基礎的な知識を問う問題、計算問題、グラフや図から規則性を読み取る問題を出題する予定です。

対策としては、理科全般にわたる基礎的な知識問題を必ず出題しますので、基礎学力をしっかりと身につけて下さい。また、問題文で与えられた条件から答えを考察する問題、簡単に説明する問題など、知識を活用しながら答えを導く問題も出題する予定です。身につけた基礎学力の活用の仕方を考えながら問題を解くことを大切にしてください。

2021年度入試 理科 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80~50%
- ③…正答率50~20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1		○				
	2	○					
	3	○					
	4			○		◎	
	5		○				
	6			○			
	7		○				
	8			○		◎	
2	1		○				
	2			○			
	3	①			○		
		②			○		
	4		○				
3	1	○					
	2			○			
	3	○					
	4		○				
	5		○				
	6		○				
4	1		○			◎	
	2		○			◎	
	3			○		◎	
	4				○		
	5				○		

大問別	1	58.0%
	2	50.5%
	3	68.4%
	4	36.3%
総合	54.5%	

第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2		○				
	3		○				
	4		○				
	5		○				
	6			○			
	7		○				
	8			○			
2	1	○					
	2	①		○			
		②		○			
		③			○		
	3	①				○	
		②	○				
	4			○			
	3	1	○				
		2		○			
		3	○				
4			○			◎	
5			○			◎	
4	1		○				
	2		○			◎	
	3	ア			○		
		イ			○		
	4		○				
5	1		○				
	2			○		◎	
	3			○			
	4				○		

大問別	1	53.3%
	2	59.2%
	3	78.3%
	4	52.1%
	5	42.9%
総合	57.1%	

第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	○					
	2		○				
	3		○				
	4			○			
	5		○				
	6		○				
	7				○		
	8		○				
2	1		○				
	2			○			
	3			○			
	4		○			◎	
	5		○			◎	
	6		○				
3	1	①		○		◎	
		②		○			
		③			○		
		④			○		
	2	①	○				
		②	○				
		3	○				
4	1		○			◎	
	2		○				
	3				○		
	4			○			
	5			○			
5	1		○				
	2	①			○		
		②			○		
		③			○		
	3			○		◎	
4			○				
5				○			

大問別	1	53.8%
	2	47.5%
	3	71.6%
	4	43.7%
	5	31.2%
総合	50.1%	

Memo

Memo